

孺恋村の財政状況と

今後の見通しについて

村民の皆様へ

平素より村の行財政運営におきましては、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年6月に地方財政健全化法が制定され、財政の健全度の基準が新たに設けられましたが、村民の皆様も村の財政は大丈夫かと心配しておられることと思います。

そこで、今回は広報特別号として一部事務組合なども含めた現在の財政状況や今後の見通しについてお知らせをいたします。

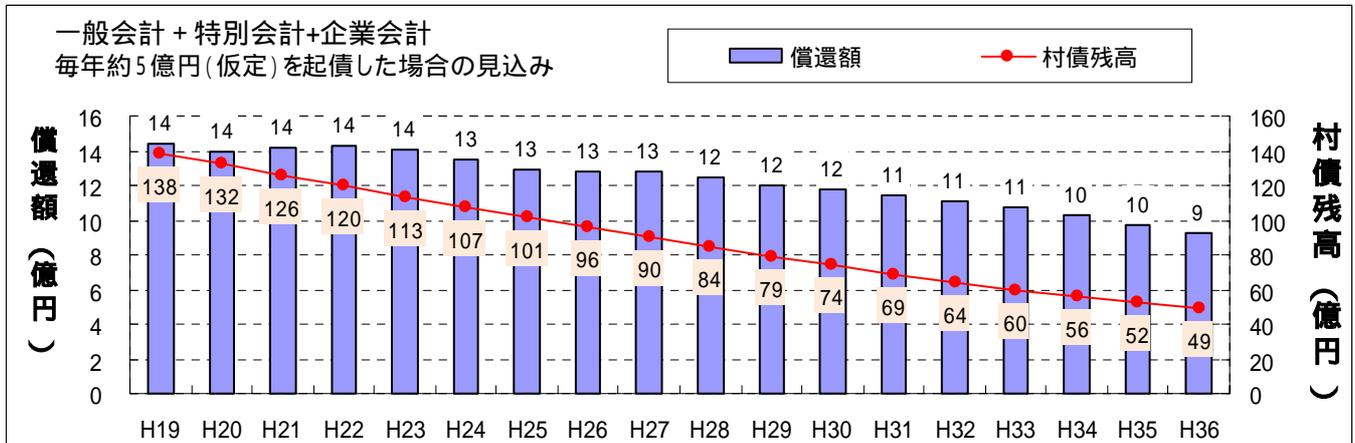
平成20年4月 孺恋村長 熊川 栄

～ 皆さんからよくお尋ねのあることについてお答えします。～

村は借金が多くて大変らしいけど大丈夫なの？

現在、村債残高は減少を続けていますが、年間の償還額がピークを迎えていることで厳しい状態が続いています。しかし、今後償還額は減少していきますので財政負担は軽くなっていきます。今後において、村が大幅な赤字に陥り、一般的に「財政破たん」と言われる「財政再生団体」になるようなことはありません。

なお、村債残高の見込みは次のとおりです。



上記以外の村債残高見込み

(単位: 億円)

名称	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
一部事務組合										
吾妻広域町村圏振興整備組合	2.1	1.8	1.5	1.3	1.0	0.8	0.6	0.4	0.3	0.0
西吾妻ゴミ処理施設組合	3.6	2.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
西吾妻し尿処理施設組合	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
西吾妻福祉病院組合	8.5	8.2	7.8	7.5	7.2	6.9	6.6	6.2	5.9	5.5
計 (村負担分)	14.2	12.0	10.0	8.8	8.2	7.7	7.2	6.6	6.2	5.5
その他										
国営農地開発事業償還金	10.2	8.4	6.6	4.8	3.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他債務負担(利子補給など)	2.1	1.7	1.3	1.0	0.8	0.5	0.3	0.1	0.1	0.1
スキー場一時借入(金融機関から)	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	15.3	10.1	7.9	5.8	3.8	1.7	0.3	0.1	0.1	0.1
総計 (一般+特別+企業含む)	167.8	154.5	144.2	134.5	125.4	116.6	108.9	102.4	96.1	89.8

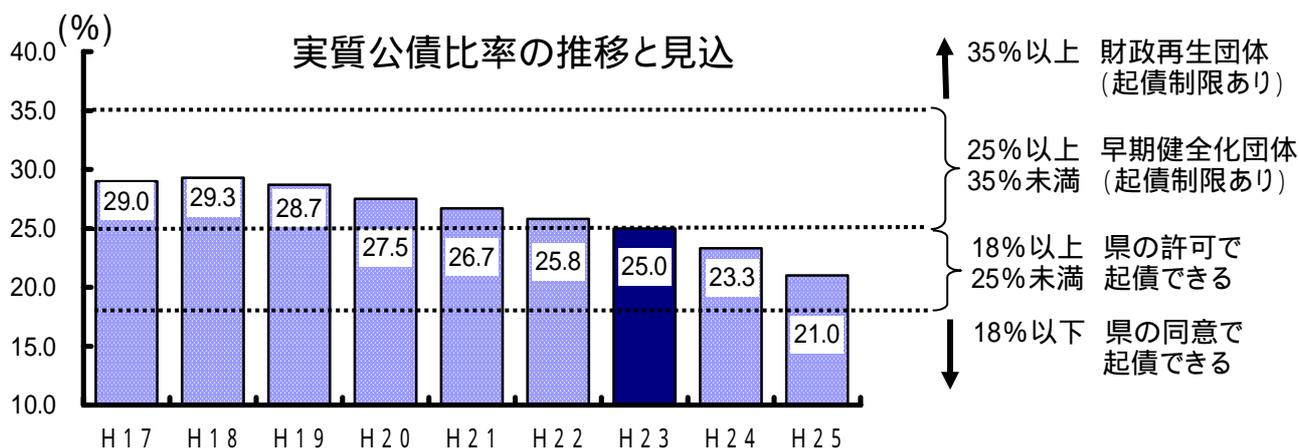
基金等からスキー場会計への長期貸付(6.3億円)は除外しています。

「実質公債費比率」が25%を超えるとどうなるの？

村において、地方財政健全化法の中で心配される指標に「実質公債費比率」があります。

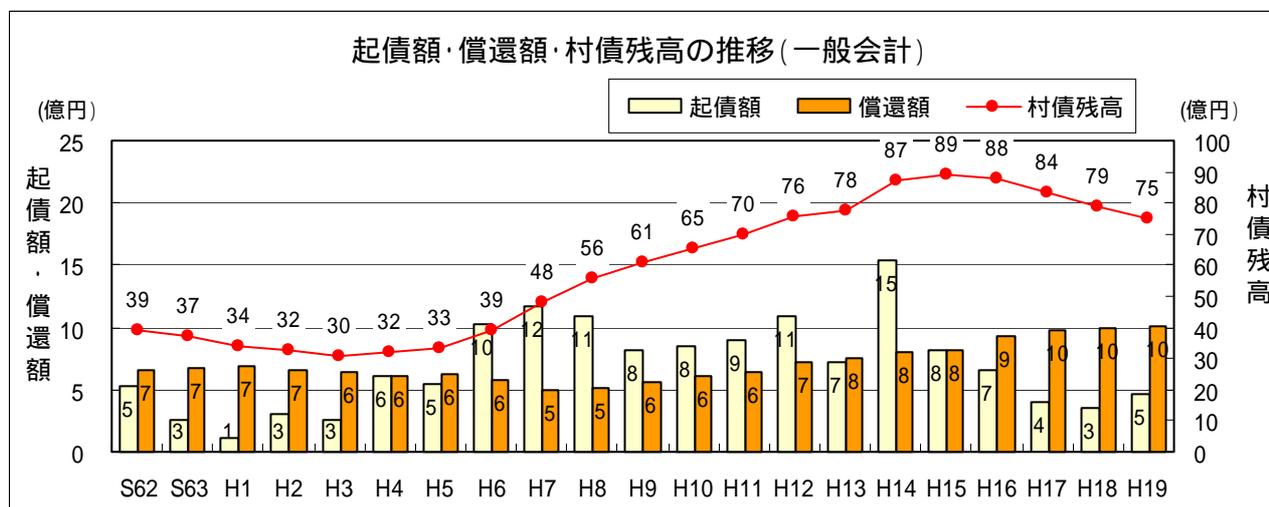
「実質公債費比率」とは、村税や地方交付税などの収入の内、借金返済のためにどのくらい使ったのか、その割合を表す指標です。今後、村の償還額は減少していきませんが、平成22年度までは「早期健全化団体」に位置づけられる基準の25%を超えて推移する見込みです。これにより起債制限や外部監査の導入をはじめ、新たな財政健全化計画の策定、また国・県への状況報告や公表などの取り組みが求められることとなります。

平成23年度以降は25%以下になる見込みですが、健全な状態とされる18%以下を目標に努力をしていかなければなりません。



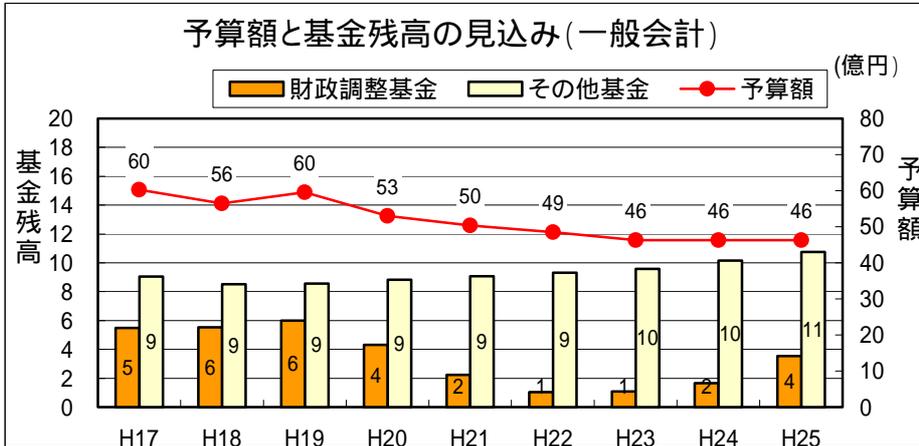
どうしてこんなに借金が増えてしまったの？

バブル期が過ぎた平成の初期から起債額が年々増加し、それに伴い年間の償還額も増え続けました。ここ数年、起債額は減少していますが、償還には据置き期間があるため一般会計では平成19年度に償還のピークを迎えることになりました。バブル崩壊後の国による景気浮揚策を受け、村では主に農業関係の補助事業に多く取り組み、道路改良や下水道整備、また東・西中学校建設など各種施設の建設も多く行われました。さらに、平成元年度から始まった国営農地開発事業が平成13年度に完了し、村の負担額が確定した後の平成14年度に26億円(内、一般会計は8億円)の起債を行ったことで一気に増加しました。また、国による減税や地方交付税が減額された分を地方自治体に起債させて、償還時に国が負担をするといった国の厳しい財政状況を反映した起債が約半分を占めています。この起債も債務残高に含まれることが増加してきた大きな要因でもあります。現在は償還時に国が負担する比率が全体の約4割ですが、数年後には国と村の負担額は半々になる見込みです。しかしながら、今後できるだけ起債を抑えていかなければならないと考えています。



今後の財政見通しは？

村では平成18年9月に「孺恋村財政健全化計画」を策定し、歳入の確保・歳出の削減を進めています。この計画は、平成22年度までの5カ年でスキー場の一時借入（赤字）を大幅に解消することや財政調整基金（貯金）を取り崩さないで予算編成を行うことなどを目標とする計画です。平成18年度は前年に比べて約2億円の効果があったと推計していますが、さらにこの取り組みを強化するとともに毎年度計画の見直しを行い、常に数年先の見通しを立てることにしています。今後の財政見通しは、平成22年度までは相変わらず厳しいと考えられますが、その後平成25年度から財政状況は好転していくと見込んでいます。



・平成21年度以降、当初予算額は約50億円になると見込まれます。
 ・財政調整基金残高は平成22年度まで減少し、その後増加していくと見込んでいます。
 ・その他基金は毎年積み立てをしていますので今後も増加していく見込みです。

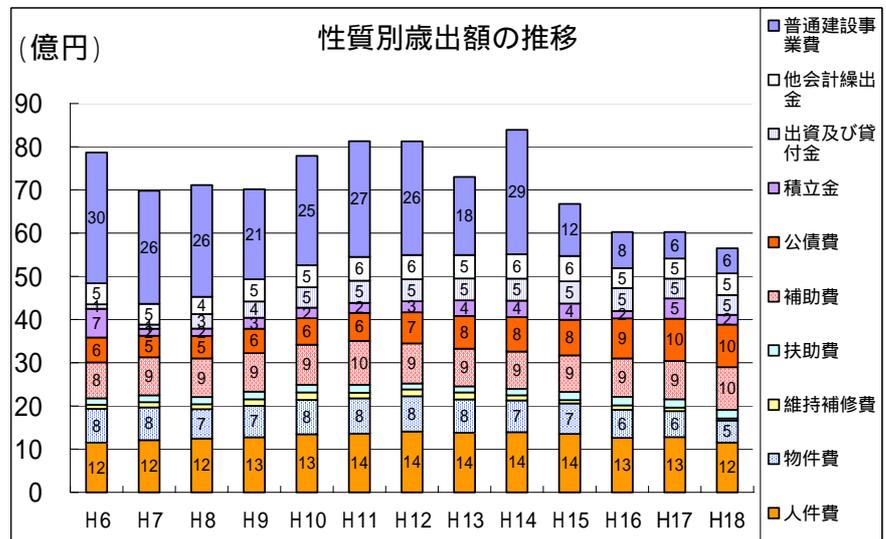
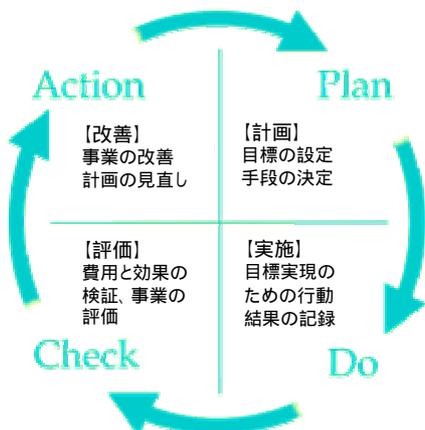
現時点での計画目標は

1. 平成20年度中にスキー場会計の一時借入金をゼロにする。（現在3億円）
2. 国営農地開発事業の償還を当初の平成28年度から遅くとも平成25年度に繰上げて完済する。
3. 実質公債費比率を平成23年度に25%以下にする。

お金がないと言いながらムダ使いはないの？

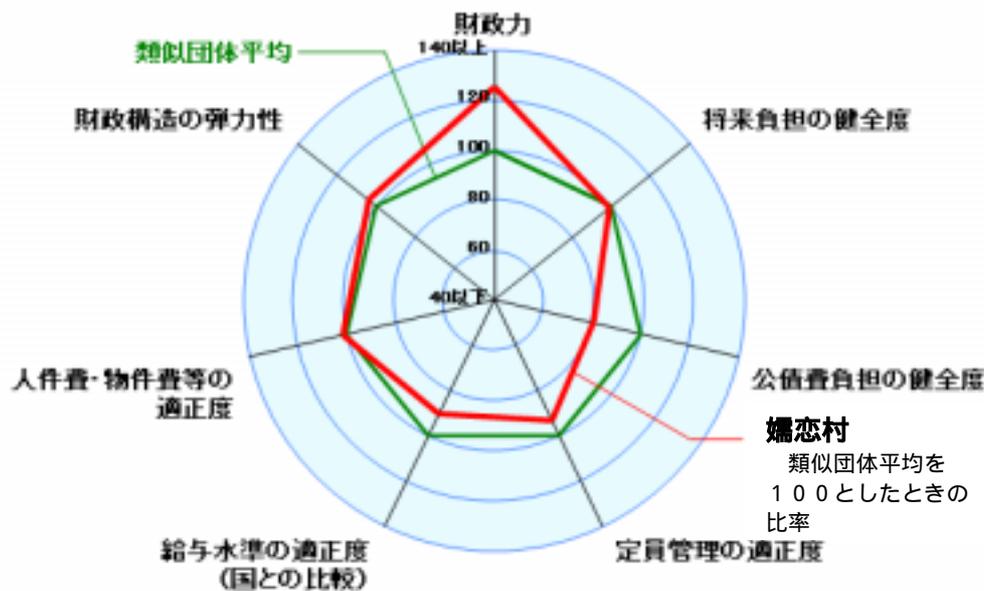
村では平成17年度から「行政評価システム」を導入し、費用対効果を重視した事務事業の見直しを進めています。その結果を実施計画（3カ年計画）や予算編成に活用し、最小限の経費で最大限の成果が得られるよう努力しています。3年間の試行期間が終わり今年の夏には、平成19年度に実施した事務事業について、その評価結果をホームページで公開する予定です。その際には、皆様からご意見をいただき、今後に反映させていきたいと考えています。

行政評価システムの概念図



孺恋村は他の町村と比べてどうなの？

財政状況を比較するうえで、人口や産業構造が似ている他町村（類似団体）との比較が行われています。その中で「財政力指数」というのがありますが、平成18年度において孺恋村は類似団体平均の約2倍で、55団体中、第2位と恵まれています。これはキャベツをはじめとする農業や観光業、商工業の発展により税金が多いことによるものです。その反面、公債費負担の健全度（借金の負担額）では、逆に悪い方から第2位となっています。財政的に恵まれていることに甘んじて、あまり貯金をせず大金を使ってきたというのが反省すべき点と言えます。結果的に道路改良率や舗装率、下水道整備率においては、類似団体と比較して高い結果となっています。今後においても歳入を確保し、歳出を抑制していくことで10年後にはかつて云われていた「裕福な村」に戻れると見込んでいます。

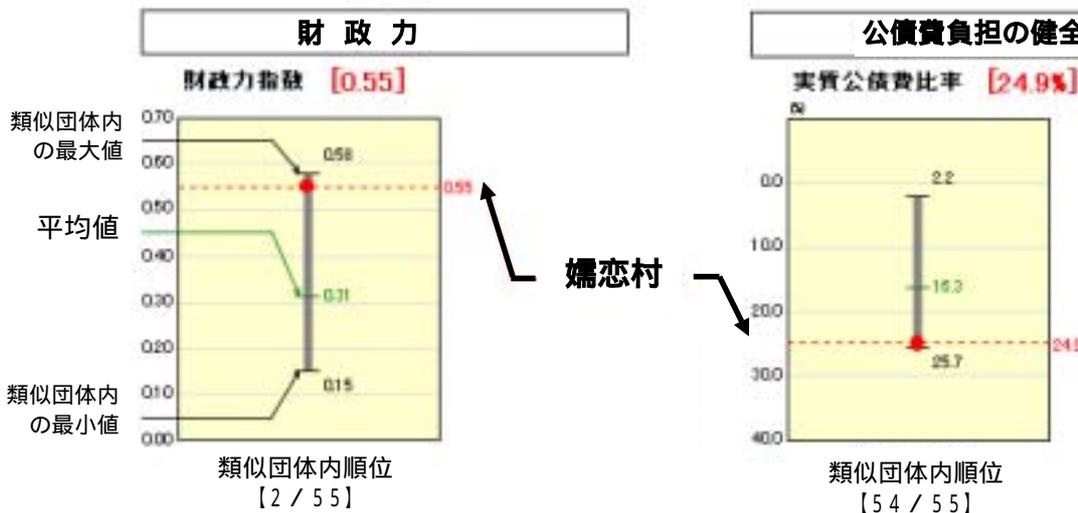


類似団体とは、人口及び産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類をした結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

近隣の類似団体の例	
長野県	小布施町
長野県	山ノ内町
長野県	飯綱町
長野県	松川町
新潟県	津南町

全国では55市町村が孺恋村と類似した町村として各種の分析で比較されます。

下図のとおり、実質公債費比率は、平成18年度において24.9%という結果でしたが、平成19年度から(財)孺恋村開発協会に対する国営農地開発事業の償還補助金も計算に算入するよう国・県の指摘を受け、数値が上昇することになりました。数値は過去3カ年の平均値が用いられます。



平成18年度決算額	孺恋村	類似団体	備考
地方税	160,938	85,277	人口一人当たりの歳入額、単位:円
地方交付税	156,740	224,192	
起債額	32,147	56,917	

施設の整備状況	孺恋村	類似団体
道路改良率(%)	85.1	56.4
道路舗装率(%)	85.9	68.6
下水道普及率(%)	69.3	31.4

おわりに

現在、計画的に財政の健全化を進めていますのでご理解をいただきたいと思ひます。また、この取り組みには皆様のご協力が必要です。今後とも「協働のむらづくり」にご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。なお、ご不明な点がありましたら役場総務課までお願いします。(TEL96-0511)